



齊藤 晴子 さん

●常盤小学校 6年

子どもに寄りそう保育士に

わたしは将来、保育士になりたいです。

いとこの双子が赤ちゃんの時、面倒を見たことがあるのですが、赤ちゃんが笑顔になるとわたしもうれしくなりました。小さい子の面倒を見るのは、やりがいのある仕事だと思います。

保育園の先生が、お遊ぎを楽しみながら覚えられるように教えてくださったことをよく覚えています。きっとわたしたちのやる気を上手に引き出してくださったのだと思います。

わたしも子どもたちの気持ちを考えられる保育士になりたいです。



佐野ブランドキャラクター
さのまる

市長からの メッセージ

春を告げる桜の便りもあちこちから聞こえてきます。

先月の市議会において、平成27年度予算を承認いただきました。昨年度に引き続き積極型予算となりましたが、人口減少社会の到来に対処するため「子育て環境の充実」、「産業基盤の確立」、「定住・交流人口の確保」を図るとともに、合併支援措置の終了に向けて「基礎的自治体として必要不可欠な施設の整備と長寿命化」を進めるための編成といたしました。私も市民生活向上のため、「対話・協調・融和」の精神で、全力を尽くしたいと考えております。

また、平成27年度においては、佐野田沼沼インター産業団地内の1.1ヘクタールを活用し、「インランドポート」の整備を進める予算を計上いたしました。インランドポート構想は、私が市長に就任して以来10年にわたり調査研究を進めてきましたが、本市の未来に大きな恵みをもたらすものと考えております。実現に向け新たな一歩を踏み出す段階となりました。

先般、平成34年に栃木県で開催が内定している国民体育大会のラグビー競技会場に、本市が選定されたことが報じられました。スポーツ立市を掲げてまちづくりを進めている本市にとりまして、大変喜ばしいことであります。多くの人に夢や希望、感動、勇気を与えてくれるスポーツの力を本市のまちづくりに活かしていくために、そして栃木国体を成功させるためにも、市民の皆さんと共に様々な施策に取り組んでまいりたいと考えております。

4月は入学式、入社式など夢や希望に向かって新たなスタートを切る季節でもあります。皆さんには、常に前を向いて進んでいただきたいと思えます。花冷えの季節は体調を崩しやすくなります。市民の皆さんにおかれましてはどうぞご自愛ください。

岡部 正英



今回の表紙 「カタクリの花」 3月18日(水)撮影

カタクリは市内の山野に自生しており、その中でも三轟山のカタクリの群落は、市の天然記念物に指定され『万葉自然公園かたくりの里』として、関東近郊などから多くの方が観賞に訪れています。

今年も可憐で淡く鮮やかな紫色の花が一斉に咲きそろいました。

ふくし な お
福士 奈央 さん

(佐野市出身)



©AKS

キラリ★
話題の「ひと」

○プロフィール

1999年4月23日生まれの15歳。2013年11月に行われた「第1回AKB48グループドラフト会議」で名古屋・栄を拠点に活動しているアイドルグループSKE48・チームEに指名され、現在、同グループで活動中。

佐野ブランド姫に就任

本市では市にゆかりがあり、各界で活躍している女性を「佐野ブランド姫」に委嘱し、市および佐野ブランドのPRをお願いしています。今回は、今年2月に佐野ブランド姫に就任した福士奈央さんをご紹介します。

本市出身の福士さんは現在15歳。大人気のアイドルグループ「SKE48」のチームEメンバーとして活躍しています。

福士さんは小さい頃からSKE48の大ファンでした。「いつか自分もメンバーになりたい」と志すようになり、先輩メンバーのパフォーマンスを徹底的に研究して、歌やダンスの練習に励みました。

厳しいオーディションや審査を経て、見事、SKE48のメンバーとなった福士さんですが、メンバーとして活動するにあたり、並々ならぬ努力が必要だったそうです。それでも「好きでやっていることなので、全てに感謝して活動しています。ファンの皆さんの応援も大きな支えです」と福士さんは言います。

本格的に芸能活動に専念するため



佐野ブランド姫就任発表セレモニーに登場した福士さん

佐野市を離れた福士さんですが、故郷を愛する気持ちは今も変わっていないそうです。「佐野らーめんもいもフライも、さのまるも、みんな大好きです！たまに帰りたいなあ、と思う時もあるけど、名古屋で頑張っています！」と話しています。

そんな地元愛でいっぱいな福士さん。今後は「佐野ブランド姫」として、イベントなど市のさまざまな事業にご協力いただくほか、市としても、福士さんの活動を応援し、積極的なPRに努めていきます。

最後に、福士さんから市民の皆さんへメッセージを頂きました。

「この度、佐野ブランド姫に就任しました。これから佐野市の魅力を全国に伝えていけるようにがんばります！応援よろしくお願ひします！」

市民の皆さんも、ぜひ福士さんへの応援をよろしくお願ひします。

佐野弁
ばんざい

テンジヨコダマとは、もとは高くて遠いところをいった

建物の屋根や屋根裏など最も高いところを、方言でテンジヨコダマ、あるいはテンジヨコダマなどといいます。五、六十年前の農家の屋根はほとんどがクズヤネ（麻の皮をはぎ取った殻でふいた屋根）でした。麻の殻を用いてふいたのでオガラヤネともいいました。このように麻殻でふいた屋根の家を一般にクズヤネといいます。

「クズヤネはドコンチ(ど)の家だって、エロリ(いろり)でモシキ(たきぎ)を燃すもんだから、テンジヨコダマ(天井裏)は煤けてまっ黒だよ」

建物ばかりでなく、樹木のでっぺん・山のでっぺん・頭のでっぺんなど高いところはみんなテンジヨコ(ク)ダマといえます。

「頭のテンジヨコダマに、ごみがくっついてツカンネ(いるよ)」

「猿が畑の作物を食べ荒らしてシャーネ(仕様がな)い)から、石ツコをブンナゲてオットバシ(追い払)いたら、トナス(かぼちゃ)かかえて、木のテンジヨコダマへするするって登ってツチャッタよ」

空や天のように高いところや遠いところを、昔は「天竺(てんじく)といいました。この「てんじく」が訛(なま)ってテンジヨコ(ク)になり、これに方向を表すダマ(「さま」の変化語)が付いて、テンジヨコ(ク)ダマとなりました。テンジヨコ(ク)ダマが日常的に使われていたのは、昭和初期頃までで、今では高齢者をのぞいてほとんど使われなくなりました。(市民記者 森下喜一)

